

**SAC ステークホルダーフォーラム  
議事録（要約版）**

<b>議題</b>	SAC ステークホルダーフォーラム— SFMP 2.0 保証プロセスにおける予備調査結果の共同化	
<b>開催場所</b>	ホテル・プルミエール 3 階ムリア・ルーム 10（リアウ州ペカンバル）	
<b>開催日時</b>	2018 年 7 月 16 日	
<b>開催時間</b>	13:30～16:00（西インドネシア時間）	
	<b>NGO 参加者</b>	
	1. デデ・クナイフィ（クジャノ） 2. リンダ・ベロニカ（TAPAK） 3. デスリアンディ（PASA） 4. ミスワディ（ISEC） 5. ファトラ・ブディアント（ルマー・ポホン） 6. プリヨ・アンゴロ（FKKM リアウ）	7. M. ラワ・エルマディ（スケールアップ） 8. イスティコマー・マルファー（スケールアップ） 9. レンドラ・ユスティ（LPAD） 10. ラフリス（ヤヤサン・フタン・リアウ） 11. ヌル・アイシャ・アミニ（フタン・リアウ） 12. テディ・ハルディアンシャー（カバー・リアウ）
	<b>学界</b>	
	1. アズハルディン・M. アミン（UIR）	2. ザルカシー（UIN ススカ・リアウ）
	<b>政府代表</b>	
	1. M. プトラッパー（KPHK ケルムタン） 2. エコ・ブラフマナント（BPKH XIX）	3. ラフマド・ダニ（KPH ギアム・シアク・ケシル）
	<b>その他ステークホルダー</b>	
	1. アルピ・マルズキ（APINDO）	2. B. S. スジャルウォ（APHI）
	<b>SAC および KPMG PRI</b>	
	1. ジョー・ローソン（議長、SAC） 2. アル・アザール（SAC） 3. エルナ・ウィトエラー（SAC） 4. ジェフ・セイヤー（SAC）	5. ニール・パイロン（SAC） 6. クリストファー・リドリー・トーマス（KPMG PRI） 7. ユディ・イスカandalシャー（保証プロセスチーム会員）
	<b>APRIL 社</b>	
	1. アドリアヌス・タントラ 2. アンゴロ・ハディ・プトラント 3. マリナ・ガルシア・バルズ	4. ナターシャ・ガブリエラ 5. スシーロ・スダーマン
	<b>開会の挨拶および議題</b>	
	<b>1. アル・アザール（進行役）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SAC ステークホルダーフォーラムの開会宣言および SAC、KPMG PRI、各ステークホルダーの出席に対する謝辞。</li> <li>・ 本フォーラムの目的説明。2018 年度 SFMP 2.0 の保証プロセスの予備調査結果について、ス</li> </ul>	

<p>テークホルダーから助言やコメントを得ること。</p>
<p><b>2. ジョー・ローソン（ステークホルダー諮問委員会（SAC）議長）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席に対する謝辞および SFMP 2.0 保証プロセスの予備調査結果に対する提案およびフィードバックの提供依頼。</li> <li>・SAC 各委員の紹介。</li> <li>・SAC の設立背景についての説明。APRIL 社の持続可能な森林管理の実績に対して、独立の監督および勧告を行うために 2014 年に設立。</li> <li>・APRIL 社の SFMP 2.0 実施を独立して保証するため、SAC が KPMG PRI を任命したことについての説明。</li> </ul>
<p><b>3. ユディ・イスカンドルシャー（保証プロセスチーム会員）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KPMG PRI が APRIL 社の SFMP 2.0 のコミットメントに対する実績を検証するため、SAC により任命されたことについての説明。</li> <li>・KPMG PRI が第三者委員会としての役割において、SAC に直接報告することについての説明。</li> <li>・検証プロセスが実績評価の重要な部分であり、したがって現場視察においてサプライヤーが協力することが、SFMP 2.0 の保証プロセスの成功を決定づけることについての説明。</li> <li>・保証プロセスのさまざまな段階について簡潔に説明。文書の審査、現場の視察、その後の調査結果の決定（不適合および改善の余地）、APRIL 社によるアクションプランの策定など。</li> <li>・2018 年度の保証プロセスのための現場視察が PT RAPP の 2 か所、提携サプライヤー 4 か所、自由市場のサプライヤーの営業エリア 2 か所で実施されたことの説明。</li> <li>・主な調査結果の概観：不適合 2 か所および改善の余地 12 か所。</li> <li>・サプライヤーからの協力が、保証結果に対処するアクションプランを策定するうえで、最も重要であるとの発言。</li> </ul>
<p><b>4. アズハルディン・M. アミン（保証プロセスオブザーバー）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KPMG PRI のサンプリング方法の説明が明確でないとの指摘。サンプリングプロセスがデータの整合性に影響するとの説明。</li> <li>・保証プロセスのための不動産チームが準備不足であるとの認識。検証のための複数の文書が容易に利用できないことが判明。</li> <li>・標準作業手順書（SOP）に関する現地職員の認識不足を指摘。これは職員に対する面談中に見られ、職員は特定の SOP について熟知していなかった。</li> <li>・特定の地域の保全区域とコミュニティの土地との間に境界線がないことを指摘。このことが不法侵入の原因の一つとなりうるという意見。</li> <li>・意思決定の根拠として、不法侵入の解決策のさまざまな選択肢を比較検討する費用対効果分析を APRIL 社が実施することを勧告。</li> <li>・コミュニティ開発プログラムがサプライヤーの間で平等に広がっていないことの影響について発言。さらに、提供される支援がコミュニティのニーズを満たすよう最適な方法でカスタマイズされていないこと（潜在的機会の喪失）との考えを披露し、コミュニティが支援提供を継続して進めていることを指摘。</li> <li>・さらに対象を特化し、影響力のあるコミュニティ開発プログラムを開発するため、効果的な分析を集中して行うよう提案。</li> <li>・複数のサプライヤーにおける同様の調査結果により、保証プロセスの指標に関するサプライヤー間の意思疎通の不足が示されていることを指摘。</li> <li>・保証プロセスの指標は、SFMP 2.0 の実施の影響を評価することにさらに焦点を置くべきと提案。</li> </ul>
<p><b>5. リンダ・ベロニカ（保証プロセスオブザーバー）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果がさらに代表的なものになるよう、保証プロセスの面談は村長だけでなく、村民にも実施すべきであると提案。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林火災の直接の影響を受ける可能性のある複数の村が、依然として生計向上プランテーションプログラムの対象になっていないことを指摘。</li> <li>・調査したコミュニティ開発プログラムの大半が、行事の形式であると発言。これらのプログラムは、コミュニティの経済的福祉を向上させるためのコミュニティへの権限付与に特化すべきと勧告。</li> <li>・複数の村のコミュニティでは、共同化不足により陳情メカニズムが知られていなかったと指摘。</li> <li>・支援データの不完全な提供や職員の面談中の対応において、保証プロセスにおけるサプライヤーの準備不足が見られたと指摘。</li> </ul>	
<p><b>6. オブザーバーによる調査結果に関する KPMG PRI からのフィードバック</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オブザーバーの意見に対する謝辞。</li> <li>・オブザーバーの調査結果を保証レポートに組み込むことを確約。</li> <li>・さらなる説明が必要な場合、KPMG PRI と話し合うためにオブザーバーを招待。</li> <li>・現場視察のリストおよび保証プロセスの指標は、保証プロセスの開始に先立ち選択された全営業権保持者に周知済みであると説明。</li> <li>・保証プロセスに対するサプライヤーの準備不足を解消する方法について、SAC とさらなる議論を行うと発言。</li> <li>・これまでに保証プロセスの一部であったサプライヤーは、初めて視察したサプライヤーよりも実績が良かったことを指摘。</li> <li>・保証プロセスの現在の指標は、SFMP 2.0 の実施に関するものであると指摘。ただし、KPMG PRI は影響についての指標の開発を検討している。</li> </ul>	
<p><b>フィードバックおよび提案に対する質疑応答</b></p>	
<p>デデ・クナイフィ（ルマー・ポホン）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陳情メカニズムに関する改善の余地について発言。コミュニティは陳情を行う手続きを把握しておらず、当社・不動産チームが陳情メカニズムの共同化を十分に行っていない。</li> <li>・陳情メカニズムについて不動産チームが把握しているレベルについて疑問視。</li> </ul>
<p>アル・アザール（SAC）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陳情メカニズムの利用率の低さは、コミュニティが文書で陳情を行うことに違和感を感じているという事実によるものではないかと発言。</li> </ul>
<p>クリストファー・リドリー・トーマス（KPMG PRI）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティは文書による陳情を行う上での支援を必要としているのではないかと発言。</li> </ul>
<p>プリヨ・アンゴロ（FKKM リアウ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでも NGO が当社に陳情を行う上でコミュニティを支援してきたと指摘。</li> </ul>
<p>イスティコマー・マルファー（スケールアップ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・RER（リアウ生態系回復）プロジェクトにおいて、漁業者が陳情を行うのを支援したスケールアップの実体験を提示。この場合、RER 管理部の代表が仲介者としての NGO だけでなく、コミュニティに対しても直接対応を行った。</li> </ul>
<p>エルナ・ウィトエラー（SAC）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業とコミュニティの間を取り持つ仲介者として自らを位置付けた NGO の仲間の仕事ぶりを称賛。</li> <li>・仲介者として NGO が陳情を企業に届け、企業からの対応もコミュニティに届けることが重要であると発言。</li> <li>・陳情メカニズムの向上について、ステークホルダーからの提案を求めた。</li> </ul>
<p>プリヨ・アンゴロ（FKKM リアウ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙ベースでの陳情メカニズムの代わりとして、携帯電話のアプリ</li> </ul>

アウ)	の利用を提案。
ラフリス (ヤヤサン・フタン・リアウ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営業権の地図を APRIL 社のウェブサイトに掲載するか、コミュニティおよび政府に配布することを提案。このような地図は、政府が空間計画を立案したり、企業の営業権とコミュニティの土地の重複を避けたりするのに有効である。</li> </ul>
M. プトラッパー (KPHK ケルムタン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ APRIL 社および同社サプライヤーが生物多様性について特定およびモニタリングを行うことを提案。動物の存在、行動、パターンや潜在的な危険を含み、必要な場合、管理計画を立案することを含む。</li> </ul>
プリヨ・アンゴロ (FKKM リアウ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保証プロセスの調査結果にもとづいて、企業 (APRIL 社) とサプライヤーの間における方針の統一不足を指摘。例えば、陳情メカニズムは国内のすべてのコミュニティに周知されていない。</li> <li>・次の保証プロセスでは引き続きオブザーバーが関与し、SFMP 2.0 の実施に関する調査結果を向上させるべきであると提案。</li> <li>・このフォーラムにおいて提起された疑問や知見に対する反応は、いつ参加したステークホルダーに知らされるのかについて質問。</li> </ul>
ジョー・ローソン (SAC)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論は議事録に要約され、この議事録は APRIL 社のウェブサイト最終決定・公開される前に、フィードバックや提案を追加する機会を与えるべく、参加したステークホルダーに回覧されると説明。</li> </ul>
ジェフ・セイヤー (SAC)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、KPH (政府の森林管理ユニット) の代表との会合を進行することのできる現地 NGO が存在するかどうか質問。</li> </ul>
プリヨ・アンゴロ (FKKM リアウ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FKKM がリアウ州の 8 つの KPH と協力していると回答。</li> <li>・KPH と当社の間でフォーラムを主催することを提案。</li> </ul>
<b>結論および閉会の挨拶</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョー・ローソンによる出席および提案への謝辞。</li> </ul>	